近代期の土木分野における工学得業士に関する研究
―五高工学部・熊本高工の卒業生を対象として―

Study on associate engineers in civil engineering under modernization in Japan:
Case study about graduates from The Fifth High School and Kumamoto Higher Technical School

熊本大学大学院自然科学研究科社会環境工学専攻　　山中　孝文

1. 序論

五高工学部・熊本高工では工学得業士を授与する土木技術者教育が行われた。ただし工学士の役割や動向等に関してはある程度明らかにされているものの、工学得業士に関しては不明な部分が多い [1)2)3)]。そのため、一般的な土木技術の普及への貢献、また現場の実務を重視されたという工学得業士の実像を明らかにすることは、近代土木分野の実状や土木技術者像を知る上で重要である。

そこで、近代期の土木分野における工学得業士の実像を明らかにするため、五高工学部・熊本高工卒業生を対象として進路および勤務先のデータベースを作成し、工学得業士の就業状況や担当現場に関して考察した。

2. 工学得業士の卒業時点における進路の把握

工学得業士の役割を考えるため、まず五高工学部・熊本高工の位置づけを整理し、卒業時点の進路を把握する。

その結果、予科を経ずに大学と同程度の高等専門学を教授しており、五高工学部・熊本高工の卒業生は全体の20%、工学得業士の 40%程度を占めた。さらに、卒業時点の進路は両校とも地方自治体と国有鉄道が多かった。

3. 工学得業士の就業状況に関する分析

工学得業士の土木技術者像を明らかにするため、卒業時点の進路とその後の就業状況に関して、業種や勤務地、勤務先の変遷に視点をおいて分析する。

その結果、図 1 に示すように地方自治体の勤務者が最も多く、常に 20～30%程度いたことから、地方自治体が工学得業士の主要な勤務先だったことが分かった。

4. 地方自治体における工学得業士の役割に関する分析

地方自治体における就業状況や工学得業士の役割について、勤務者の変遷や個人史の視点から分析を加えた。

その結果、各地を転勤しながら土木事業ごとに関与し、その地の近代化に貢献したと考えられる者がいたこと、新たな技術や手法を各地に広めた可能性があることが分かった。

5. 結論

土木分野の工学得業士は、主に地方自治体で土木事業に貢献し、各地の近代化に貢献したと考えられる。

参考文献：１）原口征人・日野智・今尚之・佐藤馨一：旧制官立専門学校における中級土木技術者教育，土木史研究，第 20 号，pp.15-22，2000　２）原口征人・今尚之・佐藤馨一：札幌農学校の土木工学教育に関する研究，土木史研究，第 18 号，pp.17-28，1998　３）泉知行・亀田佳明・中井祐：東京大学第二工学部土木工学科における教育，土木史研究論文集，Vol.28，pp.159-170，2009

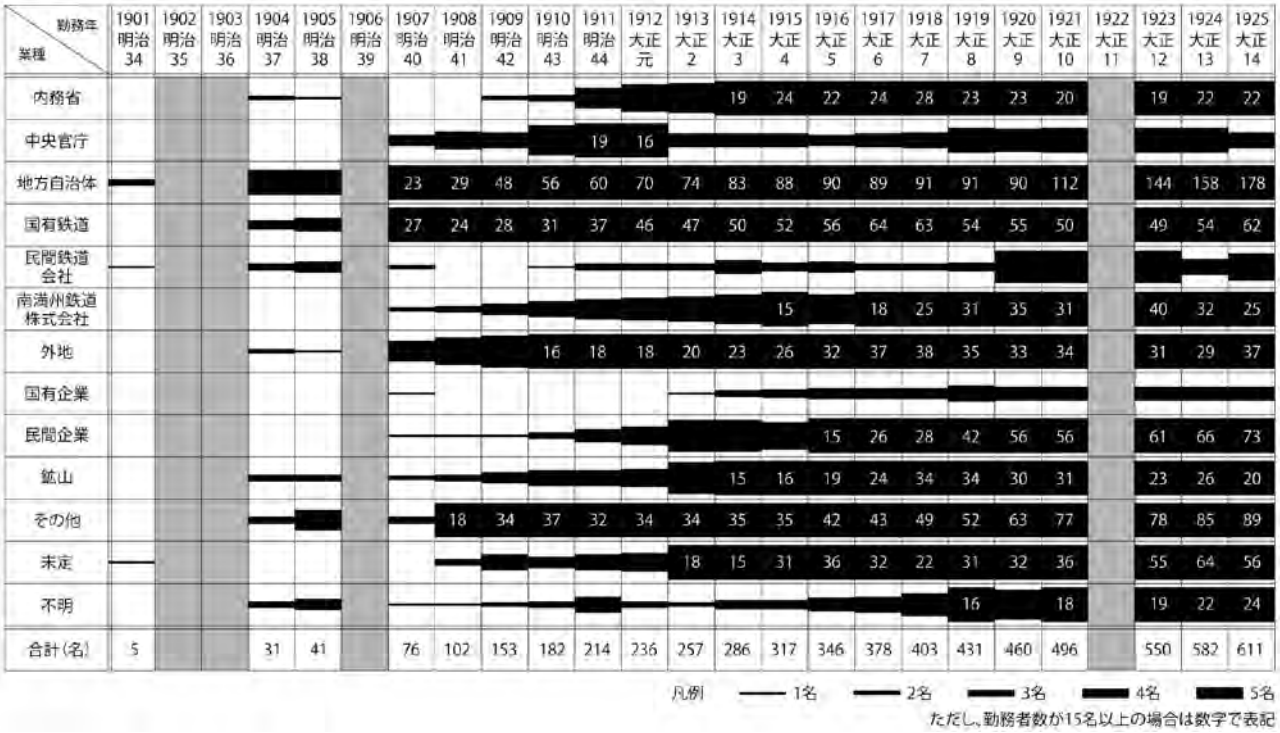

図１　勤務先の業種別経年変化（1901～1925 年、五高工学部・熊本高工）（筆者作成）